

地球環境京都会議2017 (KYOTO + 20)
分科会1:都市間連携により促進する地球温暖化対策

分科会 1 の論点

コーディネーター **小林 光**

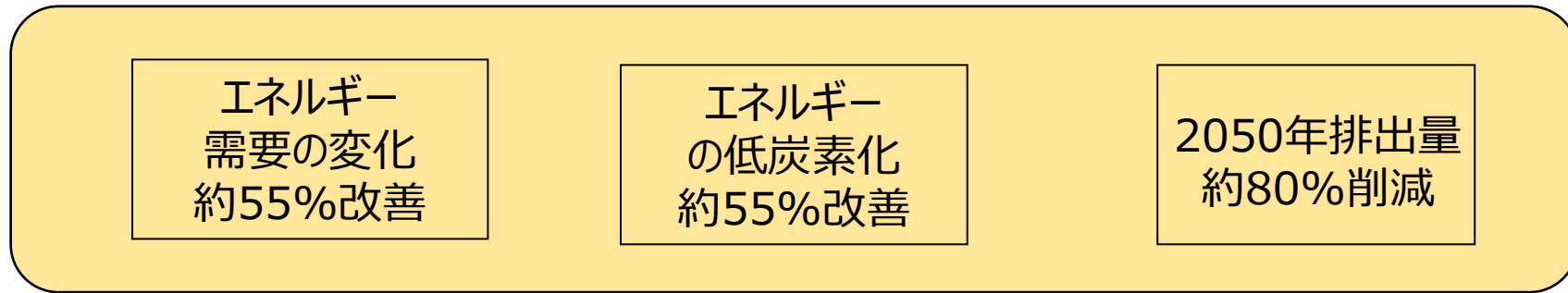
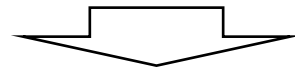
ノースセントラル・カレッジ(米国イリノイ州)フルブライト派遣教授、
慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス特任教授

コミュニティと都市は、環境のために何ができる？

私たちのクラスで出た学生の反応は次のとおり

- コミュニティは伝統的に**社会資本を供給する役割**を担ってきたが、こうした資本の大半が近隣環境の改善に寄与している。例えば、緑化、下水処理、公共交通、エネルギーや水の供給など。
- コミュニティが独占的に処理する活動がいくつかある。コミュニティは**公共サービスに付随する環境的側面を改善する責任**がある。
- コミュニティは環境に悪影響を及ぼす私的な活動を**規制する権限**がある。
- 地方自治体は事実上大きな機関であり、購買方針などで環境に配慮した行動を示すことにより**良い模範**となるべきである。
- コミュニティは、個人の利益を損わずに公共の利益を増大するために、民間のステークホルダーが互いに**連携し合える道を整え、切り開く**ことができる。

協力によるCO₂削減により相乗的な効果を期待



0.45

×

0.45

≒

0.2



限界削減費用は逓増する以上、協力すれば、同じ削減量を目指す場合は安く、同じ費用を払うなら大きな削減ができる

これからは、協力が鍵 マルチエージェントの削減協力の実際例

地理的協力 = エコ都市づくり

- ・地産の自然エネルギーを利用するマイクログリッド
- ・工場やゴミ焼却施設の廃熱利用
- ・公共交通機関が利用できる宅地開発
- ・緑地冷熱浸み出し（外部経済）の活用
- ・個々の建物が自然エネルギーをフルに利用できるように最適設計した宅地 など

時間的協力 = スマートグリッド

- ・グリッド中の充電池等の活用（自然エネルギー過剰供給の場合）
- ・グリッドの中での他の電源の活用（低CO₂電源の優先活用、非効率電源の休止等）
- ・グリッド中の需要の削減、繰り延べ など

サプライチェーンの協力 = SCOPE 3

- ・高張力薄板鋼板
- ・低硫黄軽油
- ・省エネ性能の高い部品、製品 など

都市は、特に地球温暖化対策の分野で何ができるか。

地球市民として、都市のガバナンスを、どのように発展させることができるか。そのヒントは何か。また、障害は何か。

国境を越えた都市間連携を、どのように強化することができるか。